4/18/2016

日本・アジアのキリスト教――無教会キリスト教の系譜（5）

芦名定道

＜演習のスケジュールと場所＞

演習日（前期）：4/11, 18, 25, 5/2, 9, 16, 23, 30, 6/6, 13, 20 , 27, 7/4, 11, 18
場所：キリスト教学研究室

・初回の授業では、本演習のオリエンテーションを行い、演習の目的や進め方を確認する。　二回目以降は、南原繁『国家と宗教――ヨーロッパ精神史の研究』（岩波文庫）の内、「第一章　プラトン復興」「第二章　キリスト教の「神の国」とプラトンの理想国家」を、担当者の解説を通して、順番に精読してゆく。

・4/11：オリエンテーション（本日）
・4/18：「昨年度の演習から」＋担当者確定。
・演習は 4/25 より開始。
・毎回担当者が、テキストの内容を説明し、問題提起し（テキスト外の資料などを合わせて用いる）、議論を行う。担当者はレジメを用意する。残った問題は宿題とする（次回の冒頭で報告する）。
・必要な解説を行う（芦名）。
・成績はゼミでの発表（少なくとも一回）によって評価する。

＜テキスト＞

・『国家と宗教』（岩波文庫）
・昨年度演習における使用文献
　1）福田歓一「解説１」
　2）加藤節「解説２」、
　3）近藤勝彦「南原繁における「価値併行論」と宗教的神性」（『デモクラシーの神学思想――自由の伝統とプロテスタンティズム』教文館、2000年）
　4）補論「カトリシズムとプロテスタンティズム」

＜『国家と宗教』序より＞

１．「改版の序」（1958 年）

「ある時代またはある国民が、いかなる神を神とし、何を神性と考えるかということは、その時代の文化や国民の運命を決定するものである。敗戦日本の再建は、この意味において、日本国民のそれまで懐抱して来た日本的精神と思惟の革命の要請であったはずである。」

「そこには、かえって旧い精神の復興の徴候はないか。真の神が発見されないかぎり、人間や民族ないし国家の神聖化は跡を絶たないであろう。」

「おしなべて、宗教の問題に対する近代的思惟は不幸な過程をたどって来た。十九世紀の実証主義的合理精神とその継承発展であるマルクス的経済唯物史観とは、宗教に対して無関心または否定の精神にほかならない。」（5）

「技術や経済的物質が神聖の座を占め、やがて宗教的代用物の役割を果たすようになるのである。」

「自然科学と技術文明の驚くべき威力」「現代政治の不安と恐怖」「絶対兵器の出現の前に、人類の存在自体が問われている」

「近代の過渡的反立の時代を経て、現在人類が直面するに至った政治的限界状況において、われわれは宗教的確信や信仰から何を導き出し得るであろうか。」

「文化闘争」「世界観闘争」(6)
「宗教と国家との関係の問題は、ヨーロッパ精神史の上に、最も純粋な形において展開された」(7)

２.「第三版序」(1945 年)
「問題は依然として「宗教」と「国家」――広く「文化」との関係であり、この難問の理論的解決についても、著者の見解を一層詳しく論述した。それ故に「補論」は、決して単なる補論ではなく、むしろ全体の「緒論」であり、同時に「結論」でもあるのである。読者はまず初めにこれを読まれるのも一つの順序であろう。」(10)
「日本にとって省察すべき根本の問題は実に「宗教」の問題、そしてそれと国家との関係に凝縮せられてあると言っていい。少なくともヨーロッパ精神史との関連において「キリスト教」が問題になる場合、これをいかに解決すべきであるか。」
「わが国が平和日本として真に世界史的民族たるの使命を自覚し、新しい精神と新日本文化の創造と、それを通して東亜はいうに及ばず、広く世界人類に寄与する上において、いくばくかの示唆を供し得んことは、純学術的労作の背後に隠された著者の目的でもある。」(10-11)

３.「序」(1942 年)
「全体を貫いて根本の問題が国家と宗教との関係」「西洋政治理論史研究」
「ヨーロッパ文化の始源」「プラトン『国家論』」「ギリシャ国民国家の伝統に立ち還る」
「ギリシャ国民の宗教的久遠の救済」
「キリスト教の出現」(13)
「二者の綜合ないし結合」「それ以後のヨーロッパ精神世界の根本問題」
「カント」「キリスト教的人間観と世界観が、客観的な科学的認識と不変の道徳的根拠に立てられたもの」「国家・社会および歴史の全体にわたってキリスト教的精神が展開せられるに至った基礎を形づくるもの」(14)「ヨーロッパ文化の新たな転回の志向」(15)
「国家の問題は、根本において全文化と内的統一を有する世界観のも問題であり、したがって、究極において宗教的神性の問題と関係することなくしては理解し得られないというのが、著者の確信である。」(15)

＜価値並行論＞
・山口周三「南原繁の「価値並行論」とその今日的意義――特に宗教観に関連して」
(南原繁研究会編『無教会キリスト教と南原繁』EDITEX、2012年、151-166頁)
↓
別紙・プリント

＜演習のスケジュール＞
・『国家と宗教』の「第一章　プラトン復興」と「第二章　キリスト教の「神の国」とプラトンの理想国家」を11の部分にわける。11回。
4/25, 5/2, 9, 16, 23, 30, 6/6, 13, 20 , 27, 7/4
・残りの数回。
『政治理論史』(1962年。著作集・第四巻)の第一章と第二章から、関連する部分を読む。
7/11, 18